

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月5日

協議会名: 東京都地域間幹線系統確保維持協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西東京バス(株) 丹波線「奥多摩駅～奥多摩湖～丹波」	・「奥多摩駅～奥多摩湖～丹波」 を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。 ・丹波山村内に伝わる狼伝承をモチーフとした絵本の作画作家とコラボし、路線バスの方向幕に狼伝承のイラストや丹波山村内区間に限りバス車内の停留所表示を特別仕様に変更し、登山客以外の新たな利用者層の利用促進に努めた。	B ・災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実施されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数の確保はできなかった。	A ・R4年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R4:50% →R6:56.6%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R4:15,410千円 →R6:20,912千円 【費用】R4:30,580千円 →R6:36,973千円	・観光需要に戻りがみられたものの、地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数の見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費節減を図る。
西東京バス(株) 小菅の湯線「奥多摩駅～大菩薩峠東口～小菅の湯」	・「奥多摩駅～留浦～小菅の湯」 ・「奥多摩駅～大菩薩峠東口～小菅の湯」 を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。	B ・災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実施されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数の確保はできなかった。	A ・R4年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R4:46% →R6:53.1%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R4:16,674千円 →R6:21,018千円 【費用】R4:35,583千円 →R6:39,614千円	・慢性的な需要不足によりこのままでは路線の存続が困難である。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数の見直しを行い、運行のあり方そのものに関し検討を進める。
西東京バス(株) 鴨沢西線「奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西」	・「奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西」 を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。 ・丹波山村内に伝わる狼伝承をモチーフとした絵本の作画作家とコラボし、路線バスの方向幕に狼伝承のイラストや丹波山村内区間に限りバス車内の停留所表示を特別仕様に変更し、登山客以外の新たな利用者層の利用促進に努めた。	B ・災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実施されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数の確保はできなかった。	A ・R4年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R4:53% →R6:67.0%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R4:18,741千円 →R6:22,718千円 【費用】R4:34,915千円 →R6:33,932千円	・観光需要に戻りがみられたものの、地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数の見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費節減を図る。

西東京バス(株) 数馬線「武蔵五日市駅～数馬」	・「武蔵五日市駅～人里～数馬」 ・「武蔵五日市駅～払沢の滝入口～数馬」 ・「武蔵五日市駅～やすらぎの里～数馬」	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・臨時バスの運行等、関係者と連携を図りながら事業を実施し、利用促進に努めた。 ・貨客混載運行を実施し、地域や貨物事業者との連携を図ることで路線の活性化を図った。	A	・災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実施された。	A ・R4年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 ・経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R4:61,108千円 →R6:70,339千円 【費用】R4:119,040千円 →R6:125,251千円 【収支率】R4:51% →R6:56.2%	・観光需要に戻りがみられたものの、地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数の見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費節減を図る。
西東京バス(株) 藤倉線「武蔵五日市駅～藤倉」	武蔵五日市駅～小岩～藤倉 武蔵五日市駅～やすらぎの里～藤倉	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線に「檜原 森のおもちゃ美術館」が開業し新たな集客を図るため、自治体と連携しラッピングバスの運行を開始した。	B	・災害等のやむをえない事由以外で運休便が発生した日はなく、事業は概ね計画通り実施されたが、需要減により臨時運行便を削減したため計画通りの年間運行回数の確保はできなかった。	A ・R4年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 ・経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R4:37,407千円 →R6:45,580千円 【費用】R4:77,458千円 →R6:87,197千円 【収支率】R4:47% →R6:52.3%	・観光需要に戻りがみられたものの、慢性的な需要不足によりこのままでは路線の存続が困難である。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数の見直しを行い、運行のあり方そのものに関し検討を進める。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・イベントにおける関係者や関係機関との連携のほか沿線施設開業に伴うラッピングバスによる利用促進策について評価する。引き続き関係機関と連携を密に生産性向上の取組を実施することを期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、他の交通機関の状況を踏まえさらなる連携を図り、地域全体で引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者にとって使いやすい地域公共交通が確保維持されることを期待する。					
第三者評価委員会における 各委員からの意見	令和6年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組を行う上で必要な観点であり、考慮されたい。 ○公共交通を取り巻く環境は非常に厳しく今が転換期。 ○鉄道など他の交通モードと情報共有を図り、データに基づいた具体的な目標・成果・課題を明らかにし、関係機関と連携のうえ地域全体で検討することが重要。 ○データの基礎となる基本情報は、応用可能なデジタル化にシフトすることを期待する。					